

伊勢・三河湾貧酸素情報 (H28-11号)

平成28年8月15日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

平成28年8月8、10日に伊勢・三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しましたが、その結果は以下のとおりです。

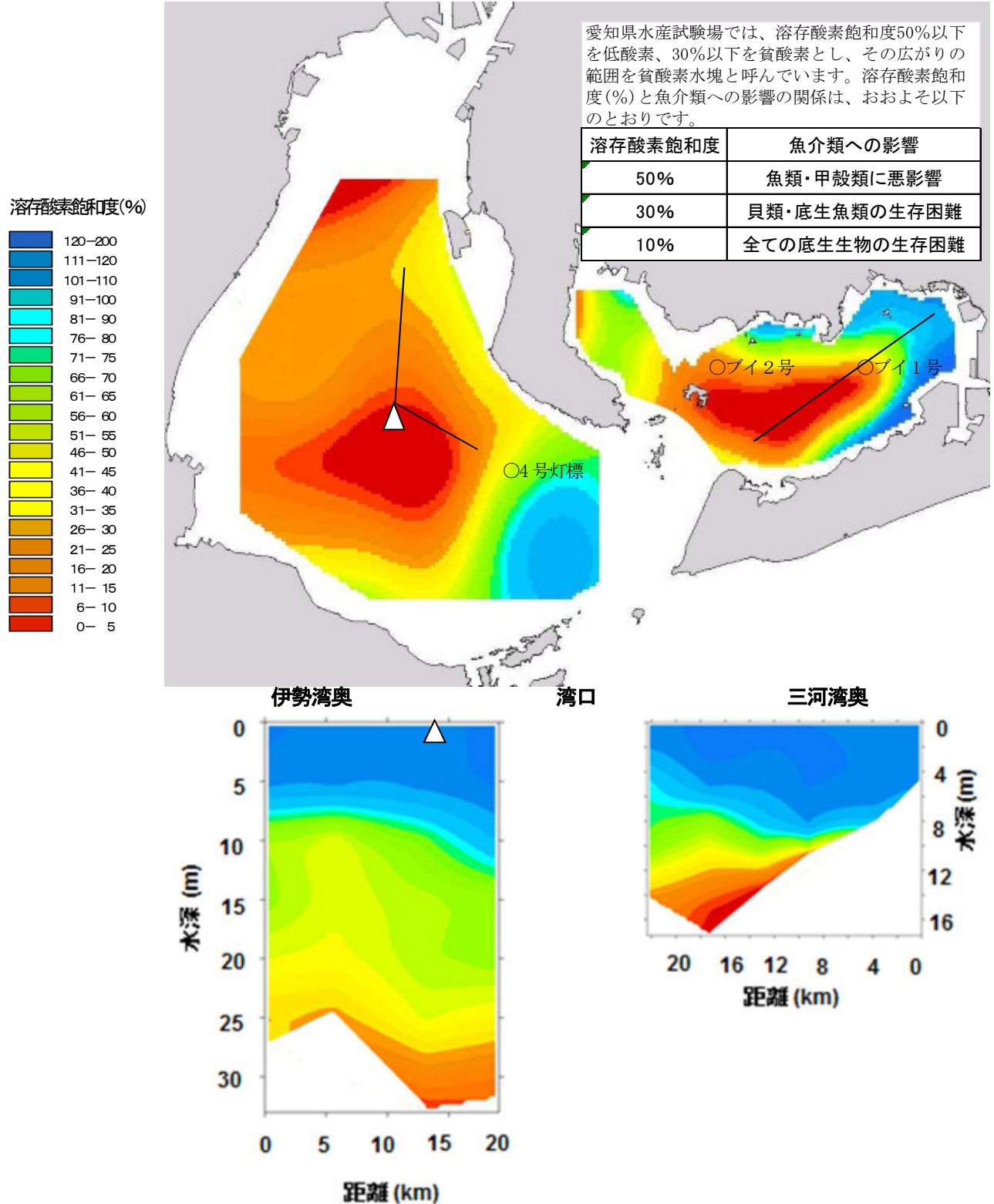


図1 伊勢湾 (8月8、10日)、三河湾 (8月10日) 底層の溶存酸素飽和度の分布 (上図) 及び上図直線部分の鉛直分布 (下図) (愛知県「へいわ」、「海幸丸」調査)

伊勢湾

8月8、10日の調査結果を図1及び表1に示しました。湾中央部から湾奥部にかけて貧酸素水塊が確認されましたが、貧酸素の層はあまり厚くないようです(図1)。国交省中部地方整備局が所管している伊勢湾の水質モニタリングシステムの第4号灯標(内海沖)の海域では10日から13日にかけて、底層への外海水の進入によると思われる溶存酸素飽和度の上昇がみられましたが、その後、底層では溶存酸素飽和度が徐々に低下し、40%前後で推移しています(図2)。

貧酸素水塊が発達している海域では、表底層の水温較差が10℃以上の地点もあり、表底層の密度差が大きく海水の上下混合が起きにくい状況です。このため、今後は貧酸素水塊が拡大すると考えられます。

表1 調査時の水温、塩分

	水温(℃)		塩分	
表層	25.9	～ 30.0	19.0	～ 31.5
底層	18.1	～ 23.5	32.6	～ 34.0

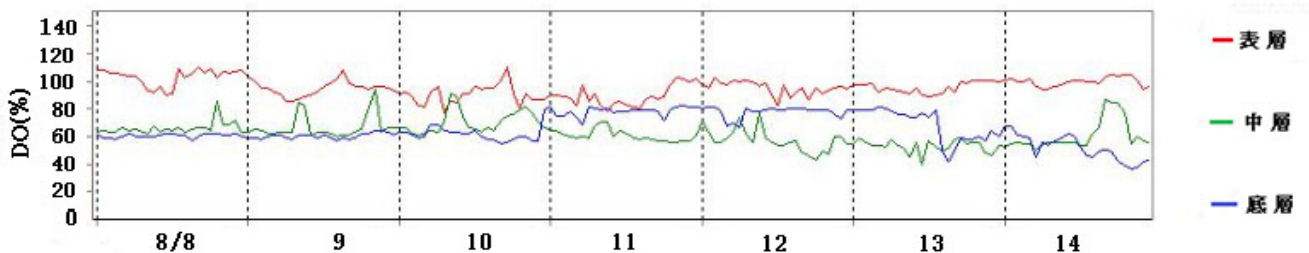


図2 伊勢湾モニタリングシステムの第4号灯標の溶存酸素飽和度(DO)の経時変化(中部地方整備局HPより)

三河湾

8月10日の調査結果を図1及び表2に示しました。前回調査(8月2、3日)に比べて渥美湾では湾口寄りに貧酸素水塊が確認されました。また、知多湾の一部でも貧酸素水塊が確認されました(図1)。

自動観測ブイ1号(蒲郡沖)と2号(吉良沖)のデータをみると、9日から12日にかけて貧酸素水塊が減少傾向となり一時的に解消しましたが、再度、貧酸素水塊が発達しています。また、2号では9日に表層まで低酸素の水塊が湧昇していました(図3)。これらは8日以降、7~10m/sの北西風が継続して吹いた影響によるもので、9日には西尾市から蒲郡市にかけての一部の海域では、苦潮の発生が確認されました。

今後は、貧酸素水塊の規模は維持されると考えられますが、台風7号の影響による強風が予想され、岸から沖側へ向かって強い風が継続して吹く海域では、苦潮が発生する可能性があります。

表2 調査時の水温、塩分

	水温(℃)		塩分	
表層	25.1	～ 29.0	29.9	～ 31.7
底層	21.9	～ 28.7	30.1	～ 32.8

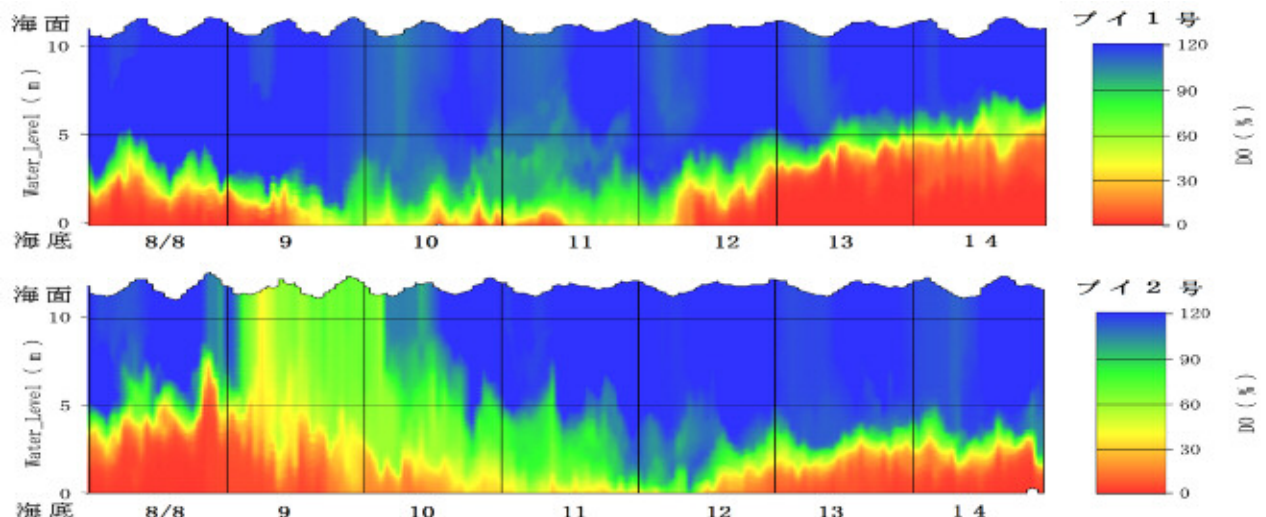


図3 溶存酸素飽和度(DO)の経時変化(上段:自動観測ブイ1号、下段:2号)

参考

前回調査時の底層の溶存酸素状況

溶存酸素飽和度(%)

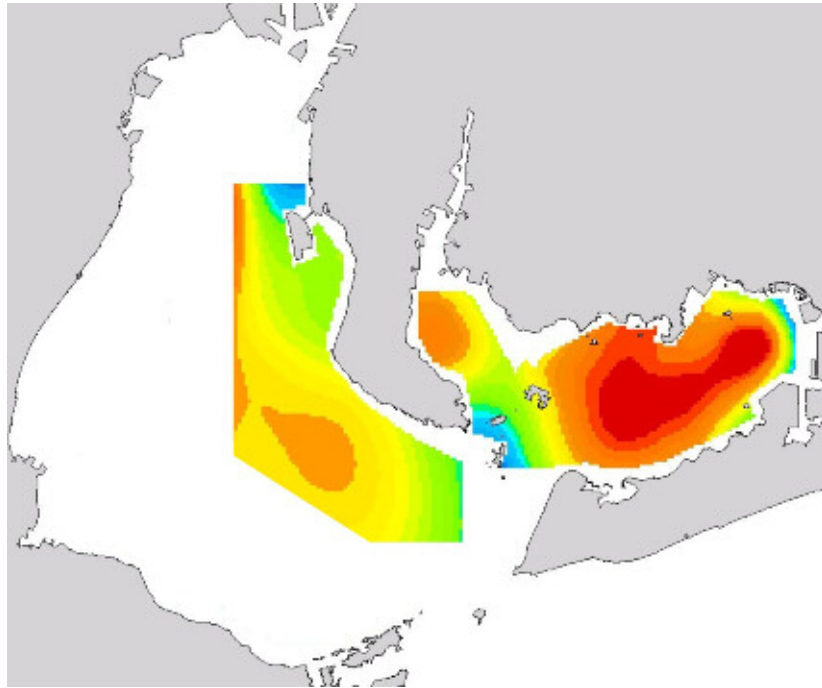
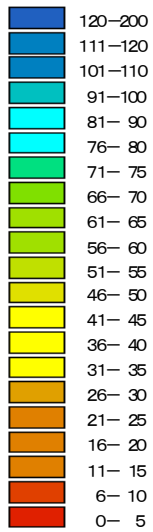


図4 平成28年8月1日(伊勢湾)、8月2、3日(三河湾)